

大阪コロナ重症施設

12/6
6/12

看護師確保「黃信号」

大阪府は15日から、新型コロナウイルスの重症患者を治療する臨時施設「大阪コロナ重症センター」を開設する。感染の急拡大で医療の非常事態を示す「赤信号」が点灯する中、当面は30床の運用を目指すが、看護師不足が深刻化し、必要な約130人のうち4割弱の確保に至らざる。吉村洋文知事が全国知事会などに急ぎよ看護師の派遣を要請する事態になつており、多難な船出を迎えてくる。(25面に関連記事)

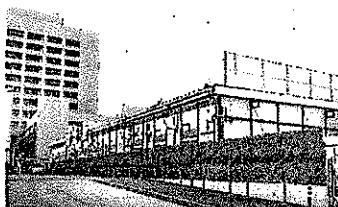
重症センターは「第3波」を見据え、吉村知事の肝煎りで整備が決まった。府立病院機構が運営する「大阪急性期・総合医療センターライフ」（大阪市住吉区）の敷地内にフレハブ施設を建設し、全床に人工呼吸器を配備する。

当面は30床の運用を目指し、2021年春までに30

床を増床する予定。症状が比較的落ち着いた重症患者を受け入れる方針で、人工心肺装置「ECMO（エクモ）」は置かない。

府内の重症者病床の使用率は64・1%（5日現在）まで上昇。府は3日、医療体制が切迫しているとして、独自基準「大阪モデル」に基づいて赤信号の初点灯に

15日開設 4割止まり



大阪コロナ重症センターの概要

場所	大阪急性期・総合医療センター(大阪市住吉区)の敷地内		ターの概要
稼働時期	1期	12月15日	
	2期	2021年春	
病床数	60床	1期 30床 2期 30床	
必要になる 主な医療職 (区分別)	医師 看護師	約20人 約130人	約80人 不足
整備費	約32億円		

な看護師約1300人のうち、確保できたのは約50人（3日現在）にとどまる。約80人が不足しており、吉林知事は府内での確保を急ぐ一方、全国知事会や関西広域連合に計40人の応援を要

ある人工呼吸器の取り扱いなど高度な技術が求められる。24時間体制で患者の看護に当たる過酷な勤務環境も影響する。

吉村洋文知事は「口出演した民族主義で、自衛隊に看護師の派遣を打診していくことを明らかにした。吉村知事は「ありとあらゆる感を募らせた。

打診 自衛隊にも

大阪知事

の連用はできない」とお断り
感を募らせた。

手段を尽べつて、何とか
床でも多く運用したが、
述べた。【堀江拓哉】

塘江拓哉

